

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
ゼミナールI Seminar I		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(公務員試験)	卒業後の進路として(地方)公務員を志望していること。
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
ゼミナールII				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
川副令	講義棟2階	初回授業で発表する		授業中に指示します
授業の概要				
地方公務員を志望する学生の学習支援を目的とする。地方自治の現状、地方公務員の仕事の特徴、公務員試験の概要等の説明を受けた上で、ゼミナール形式で筆記試験の過去問演習を行う。地方公務員の仕事への関心を高めるため、例えば児童の貧困問題への対応、空き家の相続放棄対策など、最近の行政課題に関する調査を行い、レポートを作成する。受講生は公務員を志望する理由を明確化し、自ら主体的に計画を立てて勉強を行うことができるようになる。				
授業の目標				
(1) 昨今の地方社会が抱える共通問題、地方自治体の行政課題、地方公務員の仕事の概要等を説明し、なぜ地方公務員になりたいか、志望動機を明確化できるようにする。(2) 地方公務員試験筆記試験のうち、いわゆる知能試験の出題範囲について、過去問演習を行う。その際、いきなり合格水準に到達することを求めるのではなく、どのような問題が出題されるか、どのような勉強が必要になるかを考える機会を提供することを主眼にし、学生自身が着実に自分自身で勉強できるようにする。				
授業の方法				
演習時間を、前半と後半に分ける。前半は毎回事前に予習範囲を指定して、受講生全員が同じ問題に取り組んだ上で参加する。また、各参加者に担当問題を割り振って、解答解説の発表を求める。後半はその場で問題を指定し、一定時間内に回答できるか、本番を想定した練習を行う。				
学習の成果(学習成果)				
地方公務員の仕事の重要性を踏まえた形で、志望動機を明確に説明できる。公務員試験の概要を踏まえた形で、自分に合った勉強計画を立てることができる。地方公務員試験(初級)の教養試験で重点的に出題される文章理解、判断推理、数的推理について、基本レベルの問題を解くことができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	地方公務員の仕事、地方公務員試験の概要			
第2回目	志望動機を見直す、地方公務員の仕事(映像資料)			
第3回目	地方自治の現在 レポート課題発表			
第4回目	文章理解:現代文1			
第5回目	文章理解:現代文2			
第6回目	文章理解:英語、古文 レポート提出			

第7回目	判断推理1
第8回目	判断推理2
第9回目	数的推理1
第10回目	数的推理2
第11回目	数的推理3
第12回目	数的推理4
第13回目	資料解釈1
第14回目	資料解釈2
第15回目	総括

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	出席状況のほか、毎回の問題への取り組み、質疑応答への参加等を総合的に評価する。
レポート	30%	課題を理解して適切な調査を実施したか、調査結果を要領よくまとめられているか（文章の書き方や図表の使い方は適切か）、レポート全体の体裁は適切か、等を総合的に評価する。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	40%	担当問題についての解説の準備が十分にできているか、他の参加者に伝わるよう適切な仕方で解説ができているか、を評価する。
その他		

教科書と参考図書

『地方初級教養試験：過去問350（2017年度）』実務教育出版を教材とする。推薦参考図書：大原瞳『公務員試験のキャラクター』光文社新書2011年、太田肇『公務員革命ー彼らの〈やる気〉が地域社会を変える』ちくま新書2011年。その他の参考図書は授業で紹介する。

履修上の留意点・ルール

毎回教材を持参すること。このゼミナールはあくまで学生自身による勉強を支援するものです。各自目的意識を持ち、主体的に学習に取り組んでください。